

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070800869
法人名	(株)エレガンス福岡
事業所名	グループホーム愛・あい (ユニット名 2階 )
所在地	福岡県福岡市東区名島3丁目29-5
自己評価作成日	平成26年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成26年10月10日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当GHは地域密着型サービスであることを自覚し「皆でご入居者とその生活を支える」ことを基本としている。その基盤として、ご入居者と家族、医療福祉関係者、地域の人々が相互にとって身近で親しい存在として関わり合うことのできる環境作りに努めている。その関係性の中でご入居者の安全と安心保証しご入居者が主体として自己の生活のリズムを保ち、自由に疑問や意思を表明できるよう穏やかでリラックスした空間作りにも配慮している。もっとも身近な介護職員が心身ともに健全な状態で関わることできるように個々の職員の特性や生活を大切に働きやすい職場を目指している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は3階建ての病院をリフォームし、1階がデイサービス、2階3階が2ユニットのグループホームとして開業し、12年目を迎えている。近くに運動公園、史跡があり、多々良川河口の散歩道が整備され、豊かな生活環境に恵まれている。毎日の日課として、散歩、買い物同行外出があり、利用者と地域住民が交流を持ちやすいよう職員は笑顔での挨拶を心がけている。利用者に対しては、「笑顔、感謝、尊敬の気持ちで寄り添う」というホームの理念が自然な形で実践されている。どの利用者にも笑顔が見られ、それぞれに自分の役割を見つけ、マイペースで生き生きとした生活が営まれている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念を唱和する。また、いつも目に付く場所に理念を掲げている。	法人の理念を元に、地域密着型サービスとしてのグループホーム独自の理念をみんなで創っている。職員は毎日始業前にホームの理念を唱和する事で、仕事に向かう心構えを整えている。理念に沿ったケアを管理者、職員共に取り組んでおり、月1回のスタッフ会議等で立ち戻り、理念の見直しを含め検討する機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との会議を定期的に行っている。子ども会の訪問や中学生の職場体験などの交流、その他地域内での買い物や散歩時の挨拶・会話で交流を行っている。	地域の行事の、近隣公園の花苗植え、手入れ等に利用者と参加している。毎日の日課である散歩や商店街への買い物同行の折、地域住民と挨拶を交わし、交流を楽しんでいる。また、敬老の日には、地域子供会の訪問があり、子どもから手紙や手作りのプレゼントがあり、楽しいひと時となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し認知症について勉強会を行っている。家族には来設時認知症やその支援方法について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で毎月の行事報告を行ったり、入居状況を話している。また、自治会より地域行事についての連絡がある。	地域の役員、包括支援センター職員の出席を得て開催され、利用者も参加し意見を述べる機会がある。会議は毎回同じメンバーであり、利用者家族及び地域密着型サービスの知見者の参加はない。ホーム行事の報告、情報交換を行っている。サービス向上に活かせる議題の提案がなされていない。	現在の参加者に加え、地域密着型サービスの知見者へ会議参加を呼びかけ、家族参加可能な日時等の検討を期待したい。スタッフ会議等で上がった問題点等を提議し、外部の意見を聞き、サービス向上に活かしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員に会議への参加を依頼し会議等で協力関係築くように取り組んでいる。保護課の担当職員の定期的な訪問がある。また、ご入居者を通じ社協との連携をとっている。	日頃から、市職員の訪問があり、管理者は利用者の生活状況や、ホームの取り組み状況を話す機会がある。支援課題のある利用者や生活保護対象者について市の窓口にご相談に行ったり、包括支援センターに繋いだり等、問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに沿って勉強会を行っている。毎日の業務中でも話し合い実践している。	年間研修計画があり、身体拘束マニュアルに沿って勉強会を実施し、職員の認識の共有を図っている。利用者が外出を希望する時は職員がエレベーター操作を手伝い、一緒にいつでも外出できる支援をしている。台所作業時、職員は立ち位置に配慮し、目が行き届くように工夫している。夜間帯のみベッド離床センサーマットを各階1名ずつ使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等でスタッフと勉強会をしている。意識的無意識的な虐待防止のために、ケアやかかわり方の方法について随時話し合いを行っている。また、ご入居者の心身の様子観察をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議等で社外研修を受けたスタッフより研修報告を行っている。また、ご入居者が成年後見制度の利用するにあたり、弁護士、いきいきセンター、保護課、社協の担当者と話し合いを行い、スタッフに周知している。	年間研修計画があり、職員は交代で外部研修に参加し、内部での伝達研修を実施している。現在、成年後見制度、日常生活自立支援事業を活用している利用者があり、職員は大まかな内容は理解できている。職員は、利用者や家族から相談があれば管理者に繋ぎ、管理者が制度の説明を行い、希望した場合は、関係者と連携を取り支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事前に関係機関より情報収集し、ご入居者・ご家族と面談を行い不安や疑問点が解消できるよう話し合いを行っている。退去時にも主治医の意見を聞き、ご家族とも協議している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のかかわりの中で聞いたり気づいたりしたことを毎朝の申し送り時や会議において話し合いをしたり、面会や家族会の時にお聞きし、改善に向けて取り組んでいる。	職員と利用者は日頃から常に会話をするので、何でも話しやすい馴染みの関係ができている。家族からは、面会時や電話の時に意見を聞いており、状況をたよりで報告したりする際にも、気軽に意見、要望等を出してもらおうよう伝えている。出た意見は職員間で検討し、運営に反映されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告・連絡・相談をこまめに行い、気づいたことを朝の申し送り時や会議において話し合いを行い改善に努めている。	管理者は日頃から職員の意見や、提案を聞く姿勢があり、即、ケアに活かしたり、スタッフ会議で検討したりして、利用者にとって、より良いケアができるように取り組んでいる。法人内での人事異動は、職員の資格や希望を考慮しておこなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見の聴取をこまめに行い、適宜職場環境の改善に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集、採用に当たっての制限はない。職員の能力や特性に合わせて、やりがいを見出せる仕事を任せている。	職員の採用に当たっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除せず、本人のやる気、熱意、思い、業務への適性を重視している。希望の休みが取れるよう配慮されており、職員は資格取得のための講習会や、趣味の活動に参加できている。働く職員が、心身共に健全な状態で利用者に関われるよう、個々の職員の特性や生活を大切にしたい働きやすい職場を目指している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご入居者に対する接遇や尊厳の保持について実践されるように常日頃から指導している。また、勉強会も行っている。	年間研修計画があり、定期研修の他にも、スタッフ会議等で常に振り返りが実施されている。プライバシー保護や利用者一人ひとりを尊重した声かけ、サービス提供の取り組みがある。個人情報ファイルは外部者の目に触れない場所に保管され、やむを得ず、個人記録を居間で見守りをしながら記入する場合は、内容が他の利用者に見えないよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会への参加を募っている。また、日々の勤務の中でもアドバイスをを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での会議や交流を図っている。また、セミナー・研修会で他事業者との交流も図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学やこちらから訪問し面談を行いコミュニケーションを図り要望を聞くようにしている。また、入居後は話し合う機会を多く作り、ご本人の思いを理解し信頼を得ることに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族との面談を行う、不安や要望などを聞き相談に応じている。入居当初は蜜に電話連絡を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとってどのようなサービスが必要か、ご本人・ご家族と一緒に考えて対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという気持ちを持ち尊敬、感謝を忘れず日々の生活の中でも相談したりアドバイスをもらったりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り協議して決めている。家族会や誕生日会とうに一緒に参加でき楽しめる雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来所は自由であり、来所を歓迎することでその関係が継続されるように努めている。また、電話の取次ぎを行っている。	友人、知人の訪問を利用者と共に歓迎し、寛いでもらえるように心がけている。家族や知人からの電話の際、難聴で電話の音が聞き取りにくい利用者には、職員が代わりに電話を受け、話を取り次ぎ、今までの関係が途切れないよう支援している。利用者が以前住んで居た地域の近くまで車でドライブし、その周辺を散策することもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のペースを大事にしている分関わり合いが少ない方もいる。同じ時間を共有し、歌やレクリエーション、外出、散歩等で管家を深めるように務めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去時の面会、通夜、争議への参列を行っている。ご家族とは手紙や電話で相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の意向を把握できるように努めている。過去の生活歴に思いを巡らせ、毎月カンファレンスを開催し職員が共有できるように勤めている。	日常におけるかかわりの中で、一人ひとりとじっくり話し思いや意向の把握に努めている。思いや意向の把握が困難な利用者からは表情や態度で察し、スタッフで検討している。また、家族から、レース編み・刺し子・塗り絵等の好きなことの情報を聞き、本人の希望に添った暮らし方を提供している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より情報提供していただいたり、日々の関わりの中でご本人より伺いスタッフ間で共有できるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、カンファレンスを基に日々の観察を行い見直すことで現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、主治医の意見を聞き、カンファレンス、スタッフ会議で総合的に協議し介護計画を作成している。	毎月1回実施しているスタッフ会議の際、全員で利用者の介護計画が現状に即しているかについて話し合いを行っている。定期的なモニタリング以外にも、必要に応じて利用者・職員・家族・協力医師等と連携し話し合い、臨機応変な介護計画の見直しが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の生活の状況を記録し、変化がある場合はスタッフ間にてカンファを実施し評価しながら介護計画に反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食の同行を行ったり、カルチャースクール参加、訪問理美容の提供をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署、地域住民の協力を得て避難訓練を行った。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向によるかかりつけ医に受診できるよう支援している。	かかりつけ医の受診が必要な際は、家族・後見人より依頼されたホームでの状況がよく分かっているヘルパーが同行している。情報の伝達方法については関係者間で話し合い合意が取れている。また、協力医の内科・皮膚科等往診はいつでも受けられるよう連携が取れている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医または看護士と24時間相談を受けられる体制を取っている。歯科、皮膚科、眼科の往診もある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室のソーシャルワーカーや医師、看護士と連携をとり、退院前カンファレンス等も行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、面会時等に随時意向を伺いながら、できる事出来ないことの説明し希望に応じられるように支援している。	入居時には必ず、利用者本人・家族に事業所で出来ることの説明を行い、意向を確認している。利用者の状況に変化が現れた際には再度、重度化した場合・終末期の在り方について、関係者全員で話し合い、ホームでできる最大の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを元に連絡や対応が行える体制を整えている。また、避難訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において災害時の協力要請を行っている。	火災に関しては、年2回昼と夜を想定して、地域住民、消防の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を実施している。スプリンクラーの設置があり、設備点検も定期的に行われている。地震・風水害等の災害時のマニュアルがなく、施設内備蓄等の準備がなされていない。	有事の際は人的支援が必要となるため、火災時のみではなく、その他の災害時における地域との協力体制やマニュアル作成について検討する機会を持つことを期待したい。食料・水・排泄用品等の備蓄が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	職員は利用者と話をする時、常に尊敬ある言葉のかけ方をして、失礼のないよう心がけている。一人ひとりのプライバシーに配慮して、支援の場面にあわせた、声のトーン・見守り・付添いを行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の意見を大切にし分かりやすい言葉かけをし、自分で決めることができるよう支援している。表現することが難しい方は表情や行動の変化に気配りし気持ちを汲み取るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者の生活パターン、リズムを把握し、一人ひとりのペースに合わせ生活が送れるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用していただいたり、つめきりや髭剃り、お化粧の介助を行っている。毎日の服装もご本人より選んでいただけるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者の好みを普段の会話の中で聞き、メニューに取り入れている。下ごしらえ、配膳、味付け、後片付けなど一緒に行っている。	買い物・下ごしらえ・調理・味付け・盛り付け・配膳・後片づけ等利用者もエプロンをつけ、自分の出来ることを手伝い、日々の楽しみになっている。食事は職員も同じテーブルを囲んで、楽しく会話をしながら、利用者の好みを聞き、食事のメニューを決めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は基本手作りとしているが、業者利用もある。メニューは食事作りの担当者をご利用者の意見や希望を取り入れながら作成している。ご利用者の状況に合わせキザミ食・ミキサー食を提供、その他水分摂取表も活用している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯洗浄、うがいを行っている。また、必要な方には訪問歯科による口腔ケアの支援も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握、トイレ誘導おこないトイレでの排泄ができるように支援している。	利用者の多くがリハビリパンツ・パットを利用しているが個別の排泄チェック表にあわせた声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。パットの汚染がなくても、トイレの便座に座ってもらうと排泄がある。声掛けは耳元で行い、トイレのドアは閉める等、羞恥心への配慮に心がけている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、水分補給や運動、腹部マッサージ等おこなっている。また、かかりつけ医の指導のもと排泄チェックを行い内服によるコントロールもおこなっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能で順番は決めているがご本人の希望にあわせて柔軟に対応している。	毎日、13時から16時までの間は可能な限り、本人の希望に合わせた入浴支援を行っている。菖蒲湯・柚子湯・入浴剤等を用いて、季節感を取り入れ一人ひとりが入浴を楽しめる様に工夫している。入浴時はドアを閉め、プライバシーに配慮をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、入床時間も個別に対応し日中も居室で休まれたり、ソファで傾眠されたりしている。日中は無理のない程度で運動やレクリエーション等の参加を呼びかけ夜間良眠できるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を経過記録のファイルにとじいつでも見れるようにしている。変更時には個人カンファに記入し申し送りで伝え情報共有している。疑問はかかりつけ医や薬剤師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦の中での特性を活かし個別に声かけしている。家事やレクリエーション、外出等で気分転換が図れるように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩や買い物は気象条件が整っていれば毎日のように行っている。その他の外出は一人ひとりに合った支援を行っている。	本人より、行きたい場所の希望が出た際には、職員が付き添い外出支援をしている。近隣の海岸・公園・スーパーへはほぼ毎日外出をしている。毎月1回は箱崎宮や利用者が生活していた町まで、ドライブに行き、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理の出来る方は小額を所持しており、お菓子や果物など購入されている。管理の難しい方は預かり金の中からその都度渡して購入していただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるように支援している。手紙は書かれたらポストに投函している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花や壁に貼り絵等ご入居者と一緒に行った作品を飾っている。	廊下の壁面は、利用者一人ひとりの手作り作品や子ども会の訪問時貰った手紙を貼り、その周りに職員と利用者が一緒に作った季節感のある飾りつけをしている。リビングの壁面は、みんなで作った大作の貼り絵が目を引き、ゆったりとしたソファで、利用者は思い思いのことをしながら談笑し過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂、居室を利用して独りで過ごしたり、気の合った者同士過ごせるよう工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家財道具を搬入していただき、身体状況に合わせて配置を行い、好みの物を飾ったと安心して過ごせるよう工夫している。	入居の際には、使い慣れた鏡台・筆筒・布団セット・飾り棚等を持ち込まれ、利用者が落ち着いて過ごせるための工夫がある。畳の和室、洋室と利用者の好みの部屋が準備され、入口には、自分で書いた表札を掛けている。室内は思い思いの飾りつけや、家族の写真を貼り、居心地良い居室になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者が作成したカレンダー等を壁面に飾って、達成感を味わっていただいている。		